

## 青森県の森林・林業・林業の仕事を学ぶ「林業体験出前授業」を受講しました

令和3年10月20日(木)に木造建築科の訓練生を対象として「林業体験出前授業」を開催しました。この出前授業は下北地域県民局地域農林水産部林業振興課の協力のもと、青森県の森林・林業・林業の仕事について理解を深めるために実施しました。



前半の講義では、林業振興課の穂元弘文主幹と小野由莉華技師を講師としてお招きし、青森県の森林・林業の仕事について、林業の必要性や県の施策を写真や動画を用いて分かりやすく訓練生に説明していただき、地球温暖化や二酸化炭素の環境問題について、「森林整備サイクル」の説明を受けて木材を扱うものとして真剣に考える機会となりました。

### 青森県庁林政課 Facebook



森林は国土の保全、水源の涵養、地球温暖化防止、木材の生産等の多面的機能を有した大切な資源となっています。地球環境や社会・経済の持続性への危機意識を背景として我が国においても、持続可能な開発目標(SDGs)への関心が高まりをみせており、森林・林業・木材利用に関わる活動に注目が集まっています。SDGsの達成に向けて、林業・木材産業関係者に加え、様々な企業や個人が森林に関わり、また行政の立場からも各種取組みが活性化するよう後押ししていくことが重要となっています。



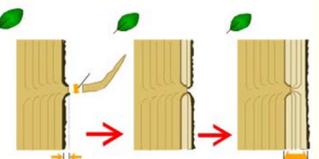
午後からはむつ市関根にあるむつ市の市有林へ移動し、訓練生全員が枝打ち作業を体験し、高性能林業機械(ハーベスタ)による伐倒・枝落し・玉切りの作業を見学しました。林業における保育作業のひとつである「枝打ち作業」については、林業振興課の野呂金徳課長から訓練生に対して枝打ちが必要な理由について詳しい説明がありました。



### なぜ「枝打ち作業」が必要なの？

枝打ちは節がなく品質の高い木材を育てるために、枝を切り落とす作業です。一定の高さまでの枝を付け根から除去することで、節目ができにくくなります。「樹冠」と呼ばれる枝葉部分の量を調節して幹の成長を制御し、適度に育てるのも目的の一つです。余分な枝を落とせば均等に日光が当たりやすくなるため、人工林の環境を良好に保てます。枝打ちと組み合わせると、より効果的に森林環境を整えられる作業が「間伐」です。過密になった場所の木を伐採し、健全な生育環境を整えます。

### 枝打ち後の巻き込み



今回の枝打ち作業を体験した訓練生からは、「枝打ち作業を実際に体験してみて作業の重要性がよく分かりました。」「かんな掛けで節のある部材の加工はとても大変ですが、枝打ちをすることで節をできにくくすることについて勉強することができました。」「森林を管理するには苗木を育てて山に植え、下草刈や枝打ち、間伐など森林の整備サイクルについて分かりやすく説明を聞くことができ、とても貴重な機会となりました。」などの感想がありました。



毎日の実習で木材を扱う訓練生に対して実施した「林業体験出前授業」ですが、講義や体験及び見学をとおして森林をより身近に感じ、これから材料である木材を大切にしていこうとする意識を持つことができました。木を育て伐採し、建築物に材料として使い、消費して再び自然に戻る。その後、自然の力を利用して、再び木を育てていく循環は資源の生産を生むリサイクルであり、「緑の循環」は持続可能な資源となっているので、今後も木質資源を有効に活用できるよう大切に扱っていききたいと思います。